父は
真っ直ぐにそびえ立つ木のような人だ
えっ ぎっくり腰!?
パキッ
父さんが?
無理だよ オレは父さんに 嫌われてるし…
え? 兄さんに 連絡つかないの? そんな…
あ うん… わかった
ごめんね おばさん
通話終了
ピッ
ハア…

じんわり沁みる、実力派・雨宮もえ最新読み切り
コミックス『オルガの心臓』全３巻発売中
雨宮もえ
…困ったなぁ…
突然の電話をきっかけに、目を逸らしつづけてきた父と向き合う時がやってきた―。これは、素直になれない親子の物語。
流木の漂着

☆この物語はフィクションです。実在の人物・団体・事件などとは関係ありません。

バッタン

カチャ

拓
お前今何やってんだ？

…芸術家…みたいな？
父さん流木アートって知ってる？
なんだまだ定職についてなかったのか!?
カッ
怒鳴らないでよ

…たく
いい加減にしろよ
…はい…

着いたよ

え……

ここ……？

父さん こっち

ど…どうしたんだ この家は!?

人から借りてるのか？

ううん

…お世話になった人がいたんだよ
オレがその人の最期を看取ったんだ

その人がオレに譲ってくれた

お…
おい拓…
何を言ってるんだ？

大丈夫だよ オレたち本当の家族みたいに暮らしてたんだ
拓!!
お前恥ずかしくないのか!? 人の情につけこんで詐欺まがいのこと…
ビキッ

っててて…

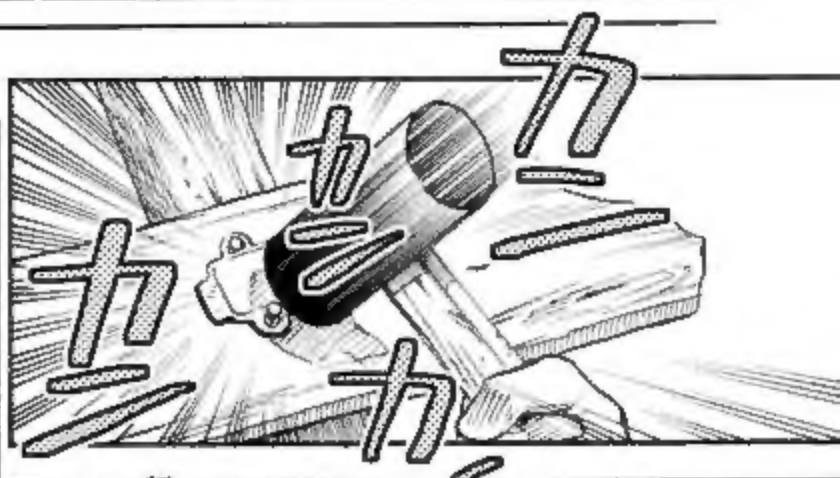
…父さん怒鳴らないでよ
大丈夫だってば

この家をくれた人はオレのことを息子のように思ってくれてた
オレもその人のことを家族だと思ってた

そういうところ
変わってない
んだね

片親な分彰やお前に不満の多い思いをさせたかもしれない
だがそれが仕方ないことくらい大人のお前ならもうわかるだろう？
いつまで言ってるつもりだ
くだらん

俺は本気でお前を心配しているんだぞ
……うん
わかってる
心配させてごめん…
9
カーン
カーン
カーン
カ
ゴッ
いっ
～～～っ
『俺は本気でお前を心配しているんだぞ』
コッ
コッ

カン
カン
ブツ
カン
カーン
「心配心配」って…オレが今 何をやってるのかも知る気ないのに言うなよ
カン
少しはオレに興味持てってのー
自分が迷惑かけられたくないだけの保身に聞こえるんだよな
カーン
カン
オレはそれが少し寂しい…
あ～～兄さんが面倒見ればいいのに
父さんのお気に入りなんだからさ～～!!
ゴキ
おい大丈夫か!?
平気っす…
じーん
じーん
はぁ…
…明日

兄さんに会いにいってみるか…
拓！
兄さん！
ごめんね
仕事中に
いいよ
どうしたんだ
急に？
うん…あのさ
おばさんが兄さんと
連絡取れないって
言ってて…
あっ
スマン…
何か
あった
のか？
うん
父さんが
ぎっくり腰に
なった
それで今うちに
いるんだけど…
俺あの人と
縁切ったから
えっ？
ええ
い…
いつ…？
2年前
全然
知らなかった！
なんで!?
あの人とは
馬が合わな
いんだよ
もともと
え!?

いつまでも俺を従わせようとする
自分のいう通りにならないとすぐ怒鳴って…
俺はあの人の支配からずっと逃れたかったんだ

だけど 頭のいい兄は
社会に出てから早々に
親父と縁を切った
オレは
親父と
わかりあえないと
さんざん経験
したのに
なのに なぜ
まだ
親父に認めて
もらいたいと
思ってんだろう…

兄さんが
あの人から
離れられたのは

あの人から
認められた
ことがあるからだ

オレはどうする
べきなんだろう

おーい
拓ーー！

はーーなるほどねぇ 親父さんが…
いや～しかし 拓くんにちゃんと 親がいたとは…
えっ
なにその反応!?
だって文江さんと 暮らしてたから てっきり…
まあでも 初めはツンツン してた拓くんも
文江さんと 出会って 変わったもんねぇ
俺たちはちゃんと お前が成長したこと 知ってるよ
だから 自信を 持ってほしいねぇ
…うん
ありがとう

ピコーン
あっ そうだ！
妙案ナリ
んっ
お前 今度やる 個展見にきて もらえよ!!
ええっ!?

そしたら その時が
気持ちの踏ん切りを つける いい機会 なんじゃねぇか…？

ひら ひら
う――――ん
でもなぁ…
ペラッ
いかん いかん!!
うぬ～～～っ
決めただろ! 踏ん切りを つけるって!!
よし!
ガタン―ッ
ガチャ
!!

ぐしゃッ

!?

あっ…

父さん
もういいから
飯にしよ
もう少しだ
ぐううう〜〜
ガ〜〜ッ
目が痛てエッ
無理
すんなよ
父さん

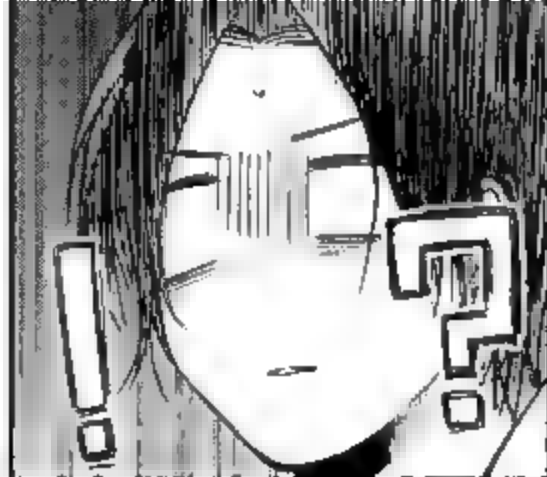
拓
定職につけ
またそれですか…

当てがないなら俺が紹介してやってもいい
大丈夫だって言ってるのに…

ちっとも大丈夫じゃないだろう!?
オレの仕事見てないのになんでそう言い切れるんだよ!?

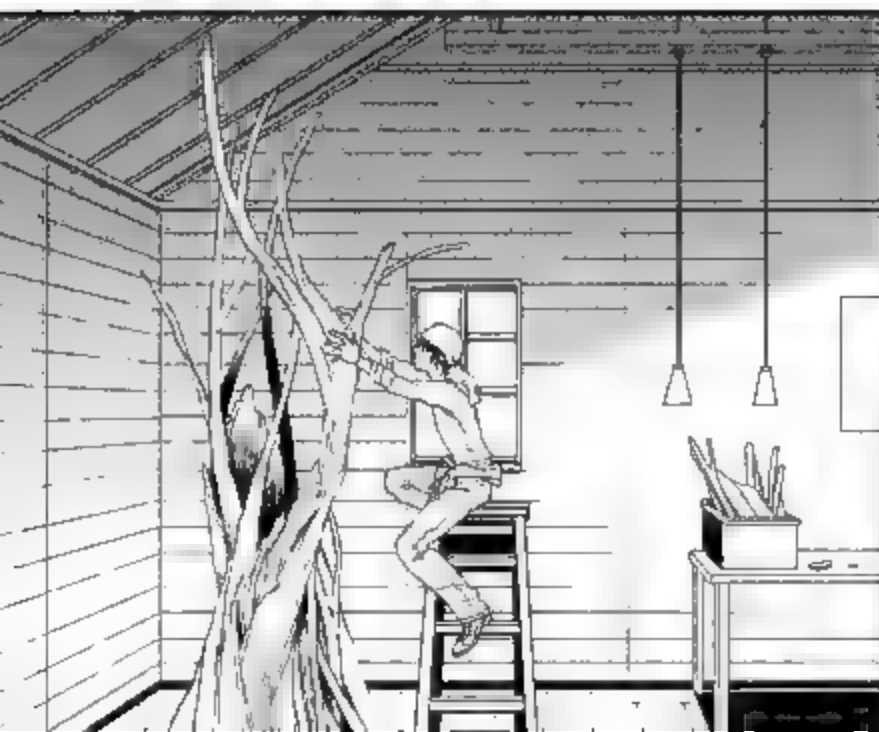
お前の仕事?

ちゃんと見てから言えよ…

ふん
いいだろう見せてみろ!
!

あ うん
そう… 見るんだ
なんだ？
そわ そわ
ううん なんでも
それじゃあ コレ 渡しとく
なんだコレは？
オレ 個展 やるから 場所ココ
ふむ…
あ、ちょっと 肉ばっか とるなよ 若者にゆずれよ
フン！ 知るか
——何か
変わるのかな

いい方向に
変わるといい

ただいま
たそがれてる

父さん何してるの？
ザザザン…
別に何もしとらん
海見てたの？
まぁそうだな
結構いい眺めでしょ
海風もきもちいいし
潮風はベタついてて好かん
ザァ
ア
海もなんの変化もなくてつまらん

美大に行きたい？

何を言ってるんだ拓

本気でそう思ってるのか⁉

お前 自分に才能があると

そうやってずるずるずるずる

親のスネをかじって生きていくつもりなんだろう⁉ 許さんぞ‼

芸術？

くだらん‼

ザザ
ザザア
つまらん
…この間
兄さんのところに
行ってきた
…
縁切られたん
だって？
早く謝って
仲直りしなよ

フン！
知るか!!
相変わらず強情
ハハハ
…でもね父さん
もう父さんより兄さんのほうが強いんだよ？
カッ
なんだと!?
これから父さんはどんどん歳をとって弱くなっていく

お前…っ
なんて下品で
恩知らずな
ことを
言うんだ…！

なんとでも
どうぞ
怒鳴って言う事
きかせられる歳じゃ
もうなくなったんですよ
おと――さん

帰る!!
どうぞ。
一人で歩いて
帰ってくださいね

…ちくしょう

ちくしょう

ちくしょう

ちくしょう……!

こんなはずじゃなかったのに

ふーん

それが拓くんの今の心情ってわけね

ふふっ
よかった
心の曲線は
まだ残ってて
流木はね
波にもまれて
少しずつ角が
とれていくの
残るのは
本来ある
優美な曲線
だけ
美しいわ
そして
優しい
私は流木に
憧れてるの
そういう人間に
なりたいのね
きっと

兄さん
花をありがとう
チン
すげぇの来て
びっくりしたよ
弟の初の個展
だからな!
奮発した
…おばさん
から聞いたよ
父さんと喧嘩
したんだって?

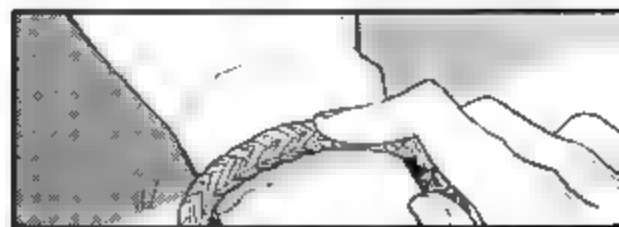
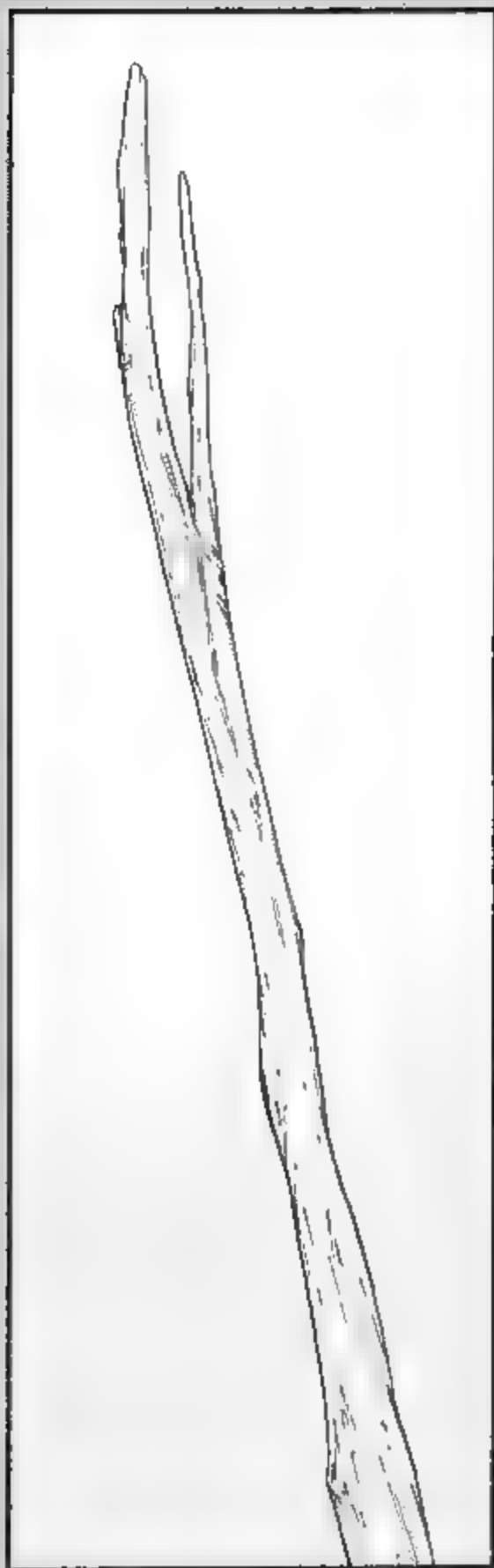
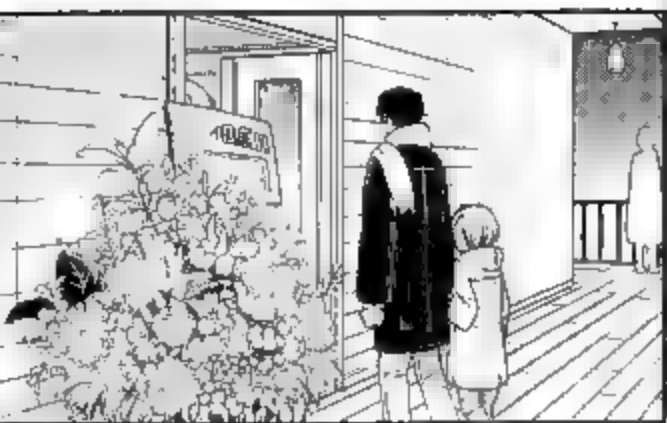
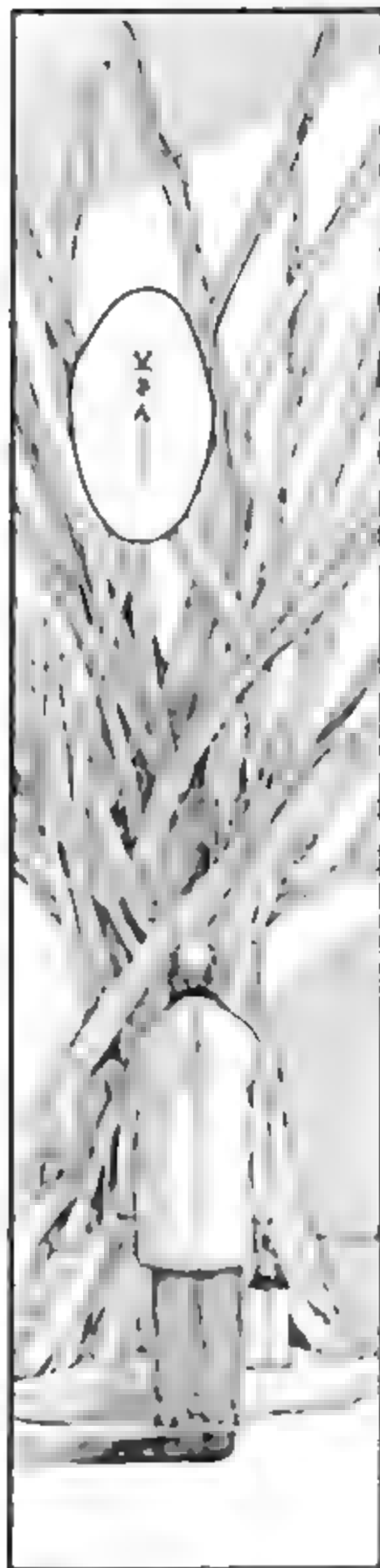
…うん ごめん ちゃんと できなくて…
謝んなくていい 俺だって 何もしなかった
お前にばかり 押しつけて 悪かったな
……
ごめんな 湿っぽくして
ううん オレこそごめん ゆっくり見ていって！
チャプン
父さん 拓です
この前は ごめん。
おばさん から いろいろ聞いた 腰治ってよかったよ
それじゃあ
・また

ザザァァ
ザザン…
はぁ…
やっぱ来なかったかぁ…
コツ
ー…

父さん―

…来てくれたんだ…
…あ
壊されたオレのオブジェ…
あぁ
お前がどんなのを作っているのかと思ってな
そっか…
ザーーー
くだらない…
ですか？
あぁ…
くだらないな

こんなに

泣けてくるんだろうな

どんなに私が否定しても お前は自分で道を切り開いていった
俺は そんなお前を見ているといつも腹が立ったよ
…なぜそんなに自由に生きられるんだ？怖くはないのか!?
俺にはできない…
ああ…
今だって何が正しかったのかわからない
父は
さまよっている
彰にも…
どう接したらよかったのかもわからない
俺は 傷つけることしかできないのか…

まるで
流木
そのものだ
流木は
優しいんだよ
波にもまれて
角が削れて
丸いんだ
誰も
傷つけない

探しにいこうよ
優しいものに触れると
人は優しくいられるんだ
『おわり』